

とんぼ玉の説明



とんぼ玉とは？

とんぼ玉（とんぼだま、蜻蛉玉）は、柄が入ったガラス玉である。模様のついたガラス玉をトンボの複眼に見立てて、「とんぼ玉」と呼ばれたといわれている。江戸時代には青地に白の花模様のガラス玉を「蜻蛉玉」と呼び、それ以外のものは模様に応じて「スジ玉」「雁木玉」などと呼ばれていたが、現在では模様に関係なく「とんぼ玉」と呼ばれている。

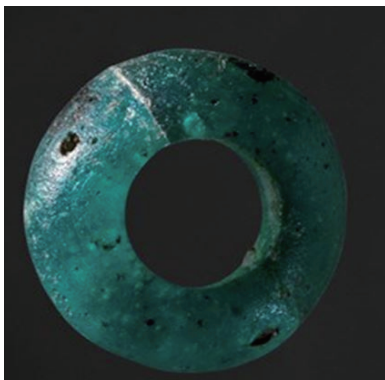
とんぼ玉の歴史

とんぼ玉の歴史は古く、今から 3,500 年も前からメソポタミヤやエジプトで装飾品として作り始められ、現在でも世界各地で作製されています。

日本では古墳時代の副葬品として出土されており、エジプトからの輸入品と考えられています。

また、奈良時代には製法が伝えられ、国内でとんぼ玉が作られていたと考えられています。江戸時代には、様々な技巧を凝らした「江戸とんぼ玉」と呼ばれるガラス玉が作られ人々に親しまれていましたが、「贅沢禁止令」によりガラス細工も禁止となり、伝統の技法が途絶えてしまいました。

その後、明治時代になるとガラス細工の技法が伝わり、江戸とんぼ玉や外国産のとんぼ玉を参考に復元が行なわれました。そして現代でも、とんぼ玉は多くの作家をはじめ、手軽に自宅でできる工芸として一般の人々へも広がり、主に観賞用やアクセサリーとして人々を魅了し続けています。



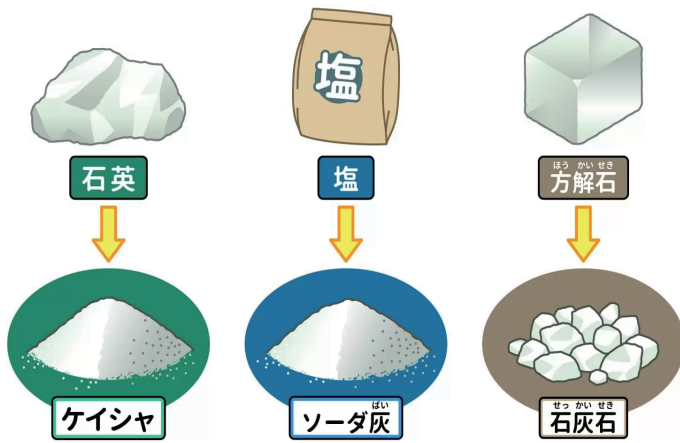
メソポタミア

紀元前 1400 年から 1100 年の間の青銅器時代後期



香川県多度津町 盛土山古墳出土 古墳時代・5～6 世紀

ガラスは何からできるの？



普通のガラスは、珪砂（ケイシャ）・ソーダ灰・石灰が主な原料で、さらに丈夫にするためや色をつけるために必要な原料を加え、よく混ぜて、高い温度でガラスにします。



色ガラスは、溶かした状態のガラスに金属化合物を添加することで色を着けているのです。

それぞれの色に使われている添加物

緑：クロム、鉄、銅

青：コバルト、銅

茶：鉄、硫黄

黄：銀、ニッケル、クロム、カドミウム

紫：マンガン、銅、コバルト

黒：濃い色を出す着色剤を混ぜる（Mn、Cr、Ni、Co、Fe、Cu等）

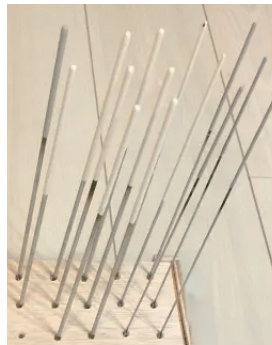
乳白色：ふっ化カルシウム、ふっ化ソーダ、りん酸カルシウム

とんぼ玉工房

とんぼ玉工房で使う道具
や材料の説明です。

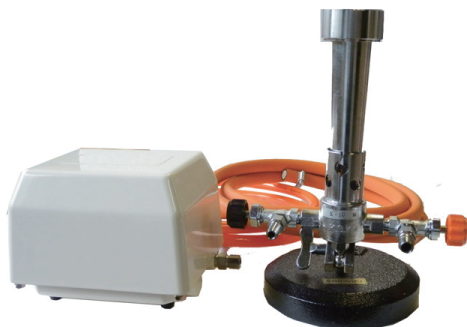
芯棒

溶けたガラスを巻きつけていく
ステンレス製の芯棒



エアバーナー（ガス＋空気）

ガスと空気を混合させ燃焼させるバーナーです。



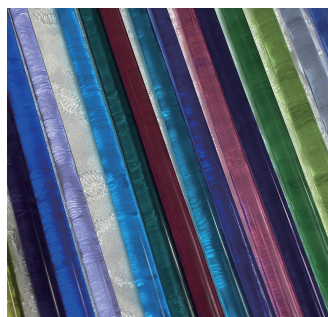
引っかけ棒

とんぼ玉の模様を作る時に
使う棒です。



ガラス棒

クリスタル系の色ガラス棒



徐冷剤

とんぼ玉を徐冷剤の中に入れて
ゆっくり冷めます

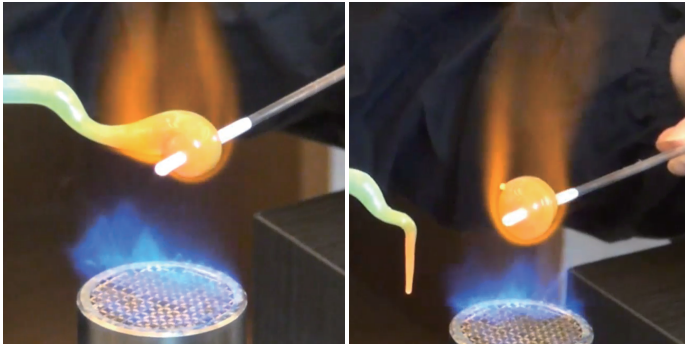


とんぼ玉の制作工程

STEP.1

ガラスを巻き取る

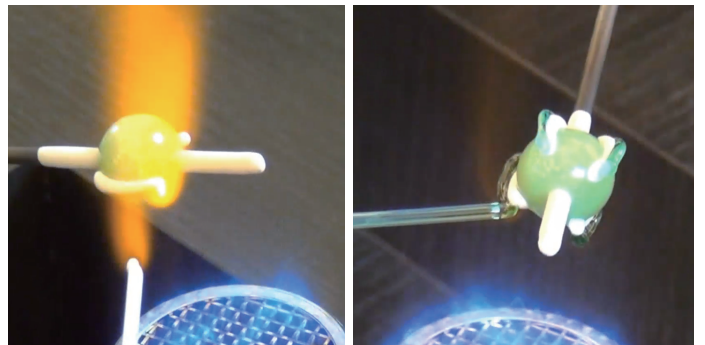
「エアバーナー」でガラス棒を溶かして
離型剤を付けた「芯棒」にガラスを巻きつけます。



STEP.2

模様の色を付ける

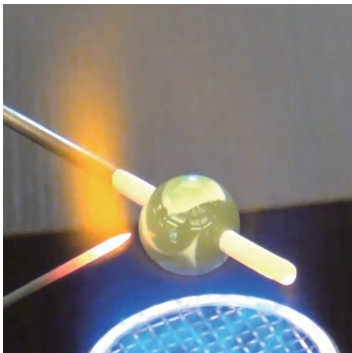
ガラス玉の上に模様を作るための別の色ガラスの棒
溶かして付けていきます。



STEP.3

模様をつくる

ガラス玉の上に付けた色ガラスを溶かしたら
「引っかき棒」を使って模様を作ります。



STEP.4

とんぼ玉の完成

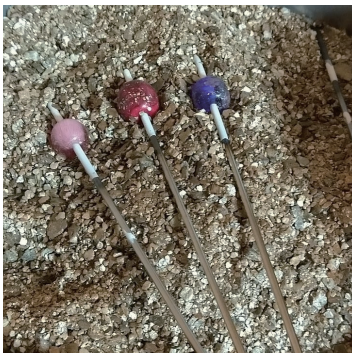
模様ができたなら形を整え「とんぼ玉」の完成



STEP.5

ゆっくり冷ます

完成した「とんぼ玉」は急に冷ますと割れて
しまうので徐冷剤の中に入れてゆっくり冷まします。



STEP.6

とんぼ玉アクセサリー

冷めたら好みのパーツを付けてアクセサリーに！

